

四日町排水ポンプ場建築工事

工事設計図

令和4年4月（全2枚）

工事場所

新潟県魚沼市四日町地内

建物概要

建 物 名 称	構 造	階 数	延べ面積 (㎡)	消防令別表第一	備 考
四日町排水ポンプ場	R C造	地上2階	414.91	第15項	

仕 様 書

I. 共通仕様

1. 本共通仕様及び特記仕様に記載されていない事項は、次にによる。  
新築及び増築に係る機械設備工事においては、「国土交通省大臣官庁



1. 空調調和方式

・ 空気調和

・ 冷暖房設備

・ 暖房設備

・ 冷暖の種類 ※HFC-R32 ※ HFC-R410A ※ HFC-R407C

・ ダクト方式 ( ・ 定流量 ・ 変流量 )

・ ファンコイルユニット + ダクト併用方式

・ 輻射方式 + ダクト併用方式

・ ファンコイルユニット + 全熱交換器

・ ヒートポンプエアコン (EHP) + 全熱交換器

・ ガスエンジンヒートポンプエアコン (GHP) + 全熱交換器

・ ファンコンベクター方式 ・ FF温風暖房方式 ( ・ ガス ・ 灯油 )

・ 温水床暖房方式 ・ 電気床暖房方式

2. 設計温度湿度条件

区 分	外 気				室 内			
	乾燥温度		相対湿度		乾燥温度		相対湿度	
	乾燥温度	相対湿度	乾燥温度	相対湿度	乾燥温度	相対湿度	乾燥温度	相対湿度
夏 期	33.5℃	64.1%	30.0℃	50 %	℃	%	℃	%
冬 期	℃	%	℃	%	℃	%	℃	%

3. 煙道等

煙道 ※ 本工事 ・ 別途工事

鋼板厚 ※ 3.2mm ・ 4.5mm

ばい煙濃度計

※ 設ける (位置は図示による。) ・ 設けない

電源はバナー電源 (2次側) から取り出すものとし、

配管配線は (※ 本工事 ・ 別途工事) とする。

ばいじん量測定口

※ 設ける (80φ、煙道直線部。) ・ 設けない

4. ダクト

煙突 ※ 本工事 ・ 別途工事

区分 ※ 低圧ダクト ・ 高圧1ダクト ・ 高圧2ダクト

工法 ※ コーナポルト工法 (長辺の長さ1,500mm以下)

※ 平板フランジ工法 ・ スライドオンフランジ工法

※ アングルフランジ工法 (長辺の長さ1,500mm超)

14 空調調和設備

5. 吹出口及び吸込口

6. 風量測定口

7. 風量調節ダンパー

8. 防煙ダンパー

9. ヒートダンパー

10. 配管材料

11. 計器類

取付位置は下記による。

・ 図示の位置

・ 送風機吐ダクト又は吸込ダクト ・ 空調機出口チャンパーの分岐ダクト

下記の使用区分のダンパーは附設仕様とする。

使用区分 ( ※ OAダクト ・ SAダクト ・ RAダクト ・ )

耐圧仕様 ダンパー軸 (ステンレス棒鋼) 軸受 (テフロン製)

自動閉鎖機構はソレノイド (瞬時通電式) 又は電動式とし、自動復帰機構は電動式とする。

燃焼入力は0.024V、0.7A以下とする。

煙感感知器、運動制御機器及びこれに係る配線類は ( ・ 本工事 ※ 別途工事) とする。

※ 遠隔復帰式 (電気式) ・ 手動復帰式

<表 - 1>「使用配管材料一覧表」のとおり

取付け部は下表による。

<計器類取付け一覧表>

機器名	部 位	計 器	備 考
冷凍機	冷水管及び冷却水管 (出入口側)	※	※ ・ 固定型 ※ 着脱型
	冷水管及び冷卻水管 (出入口側)	※	
吸収冷凍水器	冷温水管及び冷却水管 (出入口側)	※	※ ・ 固定型 ※ 着脱型
	冷温水管及び冷卻水管 (出入口側)	※	
ボイラー	温水管 (出入口側)	※	※ ・ 固定型 ※ 着脱型
	温水管 (出入口側)	※	
温水発生機	温水管 (出入口側)	※	※ ・ 固定型 ※ 着脱型
	温水管 (出入口側)	※	
空気調和機	冷温水管 (出入口側)	※	※ ・ 固定型 ※ 着脱型
	冷温水管 (出口又は入口側)	※	
熱交換器	冷温水管 (出入口側)	※	※ ・ 固定型 ※ 着脱型
	冷温水管 (出入口側)	※	
冷温水ヘッダ	(往ヘッダ) 及び各返り管	※	※ ・ 固定型 ※ 着脱型
	( ・ 各送り管 ・ 各返り管 )	※	
空気調和機 (ハナツギ形を含む)	サブライチャンパー、ダクト	※	
	外気取入れダクト及びリターンチャンパー	※	
温風暖房機	吐出ダクト、レタダクト	※	
	外気取入れダクト及びリターンチャンパー	※	

温度計はバイメタル式温度計とし、目盛板外径は100mmとする。

(ボイラー、貯湯タンクを除く)

圧力計は標準仕様第2編2.3.1による。(目盛板外径は100mm、コック・赤針(設置計)付とする。)

瞬間流量計はピトー管方式によるもので止水コック付とする。

なお、着脱型の支持部は下記を標準とする。

・ 20A ~ 40A用 個 ・ 50A ~ 100A用 個 ・ 125A ~ 250A用 個

・ ボイラー室 能力単位 × 個 格納箱 (※ SS ・ SUS) × 個 格納箱 ( ・ SS ※ SUS)

・ 地下タンク貯蔵所 能力単位 × 個 格納箱 ( ・ SS ※ SUS)

12. 消火器の設置

下記の箇所に消火器を設置する。

・ ボイラー室 能力単位 × 個 格納箱 (※ SS ・ SUS)

・ 地下タンク貯蔵所 能力単位 × 個 格納箱 ( ・ SS ※ SUS)

15 換気設備

区分

※ 低圧ダクト ・ 高圧1ダクト ・ 高圧2ダクト

使用ダクト

※ スパイラルダクト (長方形ダクトとの使い分けは図示による)

※ コーナポルト工法ダクト (長辺の長さ1,500mm以下)

※ 平板フランジ工法 ・ スライドオンフランジ工法

※ アングルフランジ工法ダクト (長辺の長さ1,500mm超)

材質

・ 亜鉛鉄板

・ ステンレス鋼板

・ 硬質塩化ビニル板

・ 塩化ビニル板 (厚み ※ 0.2mm ・ mm)

下記のダクトは標準仕様書第3編表3.2.2よりも1番厚いものを使用する。

( ・ 厨房用排気ダクト ・ )

制気口およびダンパーは14. 空気調和設備による。

水抜き管 ・ 要 ・ 不要

16 排煙設備

1. ダクト

2. 排煙口の形式

3. 排煙口手動開放装置

4. 排煙風量測定

5. 中央監視制御

6. 総合調整

※ 亜鉛鉄板製 ・ 普通鋼板製

・ 天井取付け ( ・ スリット形 ・ スイミング形) ・ 壁取付け ( ・ スリット形 ・ )

・ ワイヤース ・ 電気式 (遠隔操作) ・ 要 ・ 不要

建築設備定期検査業務指導書 (日本建築設備安全センター) の排煙風量の検査方法に準ずる。

17 自動制御

1. 中央監視制御

2. 総合調整

・ あり (詳細は 図参照) ・ なし

・ 総合試験完了後、制御計測調整報告書を監督員に提出する。

18 追加特記事項

1. 公共事業業務費調査

2. 工事監理方式

3. 適用基準等

4. 総合図

5. 工事成績評定

6. 負担金の支払区分

7. 中間技術検査

※ 協力する。

共同監理 ・ あり ※ 無し

工事進行マニュアル (新潟県土木部都市局管轄作成)

・ 管轄工事電子納品要領 (案) (国土交通省大臣官房官庁営繕部営繕計画課監修)

※ 作成する ・ 作成しない

受注者は、工事成績評定の対象となる工事施工において、自ら立案した創意工夫や工事特性に関する項目、又は地域社会への貢献として評価できる項目について、工事完了までに所定の様式により提出することができる。(様式は工事進行マニュアルによる。)

※ 本工事に含まない。

・ 本工事に含まない。

低入札価格調査基準価格を下回った額で契約となった場合は、中間技術検査を1回実施する。

検査時期については、工事現場着手前に監督員と協議すること。

規 格			用 途 ・ 種 別 ・ 施 工 部 位										備 考（接合工法等）
名 称	番 号	備 考	給水管 （地中埋設）	給水管 （埋設）	排水 管内	排水 管外	通気 管	消火 水系統 一般	ガス管 （埋設）	ガス管 （地中埋設）	油管 （埋設）		
【給水及び給湯管】													
水道用硬質塩化ビニル ライニング鋼管	JNMA K 116	SGP-VA	○									□ねじ □フランジ □ウイング	
〃	〃	SGP-VB										□ねじ □フランジ	
〃	〃	SGP-VD	○									□ねじ □フランジ	
水道用耐熱性硬質塩化 ビニルライニング鋼管	JNMA K 140	SGP-HVA		○								□ねじ	
水道用ホリエチレン粉体 ライニング鋼管	JNMA K 132	SGP-PB										□ねじ □フランジ	
〃	〃	SGP-PD	○									□ねじ □フランジ	
一般配管用ステンレス鋼 鋼管	JIS G 3448		○	○								□圧縮・フリス □拡管式 □ウイング □溶接 （給湯管にステンレス鋼管を使用する場合の保温材は、 保温材「ホリ」製品とする。）	
鋼及び鋼合金継目 無管	JIS H 3300	硬質(N)	○	○								□熱溶着 □電気融着 □ホリ	
外面被覆鋼管	JIS H3330		○	○									
保温付被覆鋼管	JODA 0006		○	○								JIS H 3300の外面に発泡断熱材（厚さ14mm以上） を被覆したもの	
水道用硬質ホリ塩化 ビニル管	JIS K 6742	VP又はH1VP	○	○								□接着（TS） □ゴム輪（RR）	
水道用ホリエチレン二層管	JIS K 6762			○								□軟質管・ホリ・ホリ 〇硬質管・ホリ・ホリ	
水道配水管ホリエチレン管	JNMA K 144											□電気融着 □ホリ・ホリ	
ホリワテン管	JIS K 6778		○	○									
ナイロンコーティング鋼管	NSP067	SGP-FNP SGP-HNP	○									□フランジ □ウイング	
【排水及び通気管】													
配管用炭素鋼鋼管	JIS G 3452	白管			○							□ねじ	
配管用炭素鋼鋼管	JIS G 3452	白管					○					□ねじ □ウイング □溶接	
排水用硬質塩化ビニル ライニング鋼管	NSP 042			○	○							□ねじ □MD	
排水用ノボールホリ・ホリ・ホリ 塗装鋼管	NSP 032			○	○							□ねじ □MD	
排水用塩化ビニル コーティング鋼管				○	○							□ねじ □MD	
排水・通気用給管	SHASE-S203												
硬質ホリ塩化ビニル管	JIS K 6741	VP	○	○	○							□接着（DV） □ゴム輪（RR） □接着（VD） □ゴム輪（RR）	
〃	〃	VU			○							□接着（VU） □ゴム輪（RR）	
排水用リサイクル 硬質ホリ塩化ビニル管	AS - 58	REP-VU			○							□接着（DV） □ゴム輪（RR）	
リサイクル硬質ホリ塩化 ビニル発泡三層管	JIS K 9798	RF-VP										□接着（DV） □ゴム輪（RR）	
リサイクル硬質ホリ塩化 ビニル三層管	JIS K 9797	RS-VU			○							□接着（VU） □ゴム輪（RR）	
耐火二層管					○	○						□接着（DV） □ゴム輪（RR） 国土交通省認定品	
コンクリート管	JIS A 5372	外圧型1種の物			○							□ウイング（8形）	
【消火管】													
配管用炭素鋼鋼管	JIS G 3452						○					□ねじ □ウイング □溶接	
圧力配管用炭素鋼鋼管	JIS G 3454	STPG 370 白管 Sch40										□ねじ □フランジ □ウイング □溶接	
消火用硬質塩化ビニル 外面被覆鋼管	NSP 041	SGP-VS						○				□ねじ	
一般配管用ステンレス鋼 鋼管	JIS G 3448											□圧縮・フリス □拡管式 □ウイング □溶接	
ナイロンコーティング鋼管	NSP067	SGP-FNP SGP-HNP						○				□フランジ □ウイング	
【ガス管及び油管】													
配管用炭素鋼鋼管	JIS G 3452	白管						○				□ねじ	
ホリエチレン被覆鋼管	JIS G 3469	PLS							○			□ねじ □溶接	
〃	JIS G 3469	PLP								○		□溶接	
ガス用ホリエチレン管	JIS K 6774										○	□熱溶着 □電気融着 □ホリ・ホリ	
配管用炭素鋼鋼管	JIS G 3452	黒管										□ねじ □溶接	
配管用炭素鋼鋼管	JIS G 3469	PLS									○	□ねじ □溶接	
〃	JIS G 3469	PLP									○	□溶接	
（注）● 印及び■ 印を適用する。													
規 格			用 途 ・ 種 別 ・ 施 工 部 位										備 考（接合工法等）
名 称	番 号	備 考	冷温水管	蒸気管	油 管	冷 却 水 管	ドレン 排水 管	地中埋設 管	補給水管	空気 配管	膨 張 管		
【冷温水及び冷却水管】													
配管用炭素鋼鋼管	JIS G 3452	白管	○	○								□ねじ □ウイング □溶接	
水道用硬質塩化ビニル ライニング鋼管	JNMA K 116	SGP-VA										□ねじ □フランジ □ウイング	
一般配管用ステンレス鋼 鋼管	JIS G 3448	SUS 304	○									□圧縮・フリス □拡管式 □ウイング □溶接 （温水管にステンレス鋼管を使用する場合の保温材は、 保温材「ホリ」製品とする。）	
【蒸気管及び油管】													
配管用炭素鋼鋼管	JIS G 3452	黒管		○	○							□ねじ □溶接	
圧力配管用炭素鋼 鋼管	JIS G 3454	STPG 370 黒管Sch40		○								□ねじ □溶接	
一般配管用ステンレス鋼 鋼管	JIS G 3448	SUS 304			○							□溶接 □フランジ	
ホリエチレン被覆鋼管	JIS G 3469	PLS			○	○	○					□ねじ	
〃	JIS G 3469	PLP					○					□溶接	
【冷媒管】													
断熱材被覆鋼管	原管は、JIS H 3300による						○					液 管：□保温厚10mm以上 ガ ス 管：□保温厚10mm以上 □保温厚20mm以上	
【空調ドレン排水管】													
配管用炭素鋼鋼管	JIS G 3452	白管						○				□ねじ □MD	
硬質ホリ塩化ビニル管	JIS K 6741	VP						○				□接着（TS） □ゴム輪（RR）	
【雑給水管】													
水道用硬質塩化ビニル ライニング鋼管	JNMA K 116	SGP-VA						○				□ねじ □フランジ □ウイング	
【空気抜き管】													
配管用炭素鋼鋼管	JIS G 3452	白管							○			□ねじ □ウイング □溶接	
【排気管】													
配管用炭素鋼鋼管	JIS G 3452	白管								○		□ねじ □ウイング □溶接	
（注）冷媒管で液管の呼び径9.52以下は、保温厚8mmとしてよい。 ● 印及び■ 印を適用する。													

第2-7「発生材の処理等」

1. 再生資材の利用

下記資材の使用に際し、再生資材を利用すること。

再生資材名	規格	使用箇所	再資源化施設名・所在地	備考

2. 建設発生土の利用

盛土等に使用する発生土は、下記の工事からの建設発生土を利用すること。

発注機関	工事名	発生場所	施工会社名・連絡先	備考

3. 建設発生土の搬出

工事の施工により発生する建設発生土は、下記の場所に搬出すること。

受入工事名/施設名称	工事場所/施設所在地	連絡先	搬出場所の有無	備考

4. 建設廃棄物の搬出

工事の施工により発生する廃棄物は、下記の場所に搬出するものと積算している。

搬出する廃棄物名	処理施設名称	施設所在地	連絡先	備考

上表は積算上の条件であり、処理施設を指定するものではない。なお、請負者の提示する施設と異なる場合において設計変更の対象としない。ただし、現場条件や数量の変更等、請負者の責にもでない事項についてはこの限りではない。

5. 建設リサイクル法の対象建設工事において、特定建設資材廃棄物の再資源化等が完了したときは、同法第18条に基づき再資源化等完了報告書を提出すること。

6. 自ら産業廃棄物を運搬・処分する以外は、委託契約書の写しを提出すること。

7. 協議について

建設工事発注後に明らかになったやむを得ない事情により、上記の指定や条件によりがたい場合は、速やかに監督員と報告し、協議すること。

＜表-3＞工事区分表

注）原則○印を適用する。	項 目	本工事	建築工事	電気工事
■躯体関係	1. RC造（梁・壁・床） の貫通孔・開口部	貫通スリーブ材及び取付け	○	
		補強を要する型枠材及び取付け		○
		補強を要しない型枠材及び取付け	○	
		貫通孔・開口部の墨出し	○	
		貫通孔・開口部の補強		○
	2. S・SRC造・梁貫通口	スリーブ・型枠の穴埋め	○	
		S・SRC造貫通鋼管スリーブ・補強		○
		使用されたスリーブの穴埋め	○	
	3. 設備機器の基礎	予備スリーブの穴埋め		○
		建築設計図に記入のあるもの	○	○
		室内の基礎（建築設計図に記入のないもの）		○
		屋外・屋上の基礎		○
		屋上基礎で押えコンにアンカーしない軽微なもの	○	
■仕上げ関係	鉄錠天井・壁下地	補強を要するボードの切り込み及び下地の補強		○
		補強を要しないボードの切り込み	○	
		開口部の墨出し	○	
	■電気関係	機器付属の制御盤以降の配管配線（接地線共）	○	
		機器付属の制御盤への電源供給配管配線		○
		機器と付属機器リモコン等の取付け及び渡り配管配線	○	
	■その他（工事区分を特に間違えず項目）			
	天井材の取外し再取付	各種配管配線作業用		○
	床はつり補修	各種配管配線作業用		○
	流し台、ガス台			○
	便所手洗い・カウンター	衛生陶器は衛生設備		○
	洗面化粧台			○
	ガス漏れ警報器			○
■一般共通事項	24H換気扇運動スイッチ	機器納入		○
		取付		○
	湯沸器運動スイッチ	機器納入		○
		取付		○
	1. 施工条件	施工場所の設備機能停止に伴う非施工場所の代替え設備。 ※設けなし、設ける（図示による） 天井解体の条件に従い、天井内の機器、配管及びダクト等を施工する。 天井解体の条件 ※ 建築工事 ・ 本工事（図示による） 工事箇所の駐車場及び資機材置場については、次による。 ※敷地内、敷地外（受注者の手配とする）		
	2. 再使用品	状態、性能及び機能等、取外し前に行う確認項目は、監督員と協議する。 取外した機器は、清掃又は洗浄等を行う。		
	3. 固定された部品、机・ロケット等の移動	※別途工事 ・ 本工事（図示による）		
	4. 本工事で設置する仮設	・ 足場 内部足場の種別 ※ A ～ D 種 ・ E 種 ・ F 種 ・ G 種 外部足場の種別 ※ A、C 種 ・ B 種 ・ D 種 ・ E 種 外部足場は枠組足場とする。 足場を設置する場合は、「手すり先行工法に関するガイドライン（厚生労働省 基発第0424001号平成21年4月24日）」の「手すり先行工法等に関するガイドライン」により、「ぬきやすい安心感のある足場に関する基準」に適合する手すり、中さん及び幅木の機能をもつ足場とし、足場の組立て、解体又は変更の作業は、「手すり先行工法による足場の組立て等に関する基準」の2の（2）手すり据置方式又は（3）手すり先行専用足場方式により行うこと。 ・ 仮設間仕切り ※ A 種 ・ B 種 ・ C 種 ※別途工事 ・ 本工事（図示による）		
	5. 養生	撤去前に内容物の回収を要する機器及び配管は図示による。 ・ 冷媒 ・ 吸収液 ・ 炭油		
	6. 撤去作業の安全対策	アスベスト含有材については次による。 ・ アスベスト含有材使用箇所（ ） ・ 本工事により含有物について分析を実施する（箇所） ・ 撤去箇所は図示による。 上記の他、撤去部にアスベスト含有の懸念がある場合は監督員と協議する。		
	7. 撤去後の補修	壁付け機器、床置き機器及び天井付け機器撤去後の取付けボルト孔、壁面、天井面の変色等の補修及び床補修等は、次による。 ※建築工事 ・ 本工事（図示による） 床、壁及び天井等の撤去後の開口部について、補修の方法及び仕上げる仕様は、次による。 ※建築工事 ・ 本工事（図示による）		

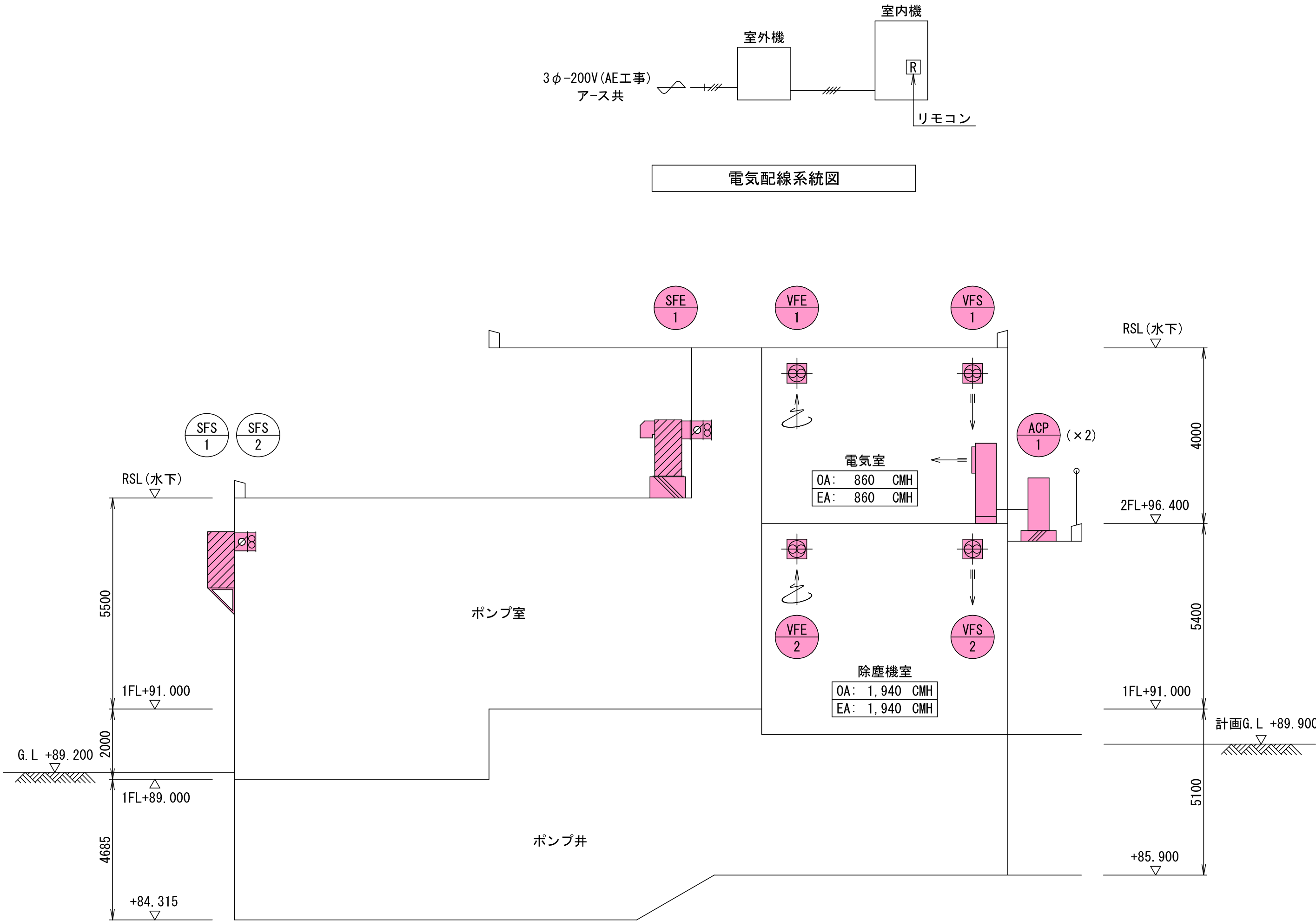
共通工事	1. 既設配管の撤去	既設配管の撤去範囲は図示による。ただし、その位置で不具合と判断される場合は監督員と協議する。	2-2-2.3	
	2. 既設配管の撤出	下記の撤去材の集積場所は、監督員と協議する。	2-2-2.3	
	3. 既設配管の再生	工法（ ）	2-2-2.11	
	4. 埋設配管	調査箇所及びサンプリング個数は、図示による。 ・埋設する部分の舗装等はのつり及び復旧工事の施工範囲及び舗装仕様は、図示による。 ・地設対策は、図示による。	2-2-5.1	
	5. 試験	植栽、芝生、舗装、石貼、タイル等の移植及び撤去、復旧並びに再利用品等は、図示による。 システム全体の試験 ※行わない ・行う（ ）	2-2-7.1	
	6. はつり及び穴開け	既設配管を含む部分の試験方法は監督員と協議する。 はつり作業を行う場合は、埋設物の調査を行い、埋設配管等に損傷を与えないように行う。 ・埋設配管等の確認方法でX線法を指定する場合は、図示による。 ・既存のコンクリート床及び壁等の配管貫通場所及び貫通口径は、図示による。	2-4-1.1	
	7. 既設基礎の解体はつり	解体基礎の仕様（有筋・無筋、防水・非防水、寸法等）は、図示による。 ・防水層等の修繕は、図示による。 ・基礎解体、撤去後の床面仕上げ及び補修は、図示による。	2-4-1.5	
	8. インサート及びアンカーボルト	既存のインサート及びアンカーボルトは原則として使用しない。やむを得ず既存のインサート及びアンカーボルトを再使用する場合は、状態及び強度をよく確認し、十分に清掃してから使用する。 引張強度の確認試験 ※行わない ・行う（ ） 下記の機器に使用するアンカーは耐震計算を行い選定する。 （ ） あと施工アンカーの試験は次による。 性能確認試験 ※行わない ・行う（ ） 施工後確認試験 ※行わない ・行う（ ）	2-5-1.1	
	3	1. 給水設備	下記の露出配管の保温は、ワンタッチ保温材（硬質ウレタンフォーム20mm）を使用する。 シャワー室	
	追加特記事項	2. 給油設備	配管材料は、〈表A-1〉「使用配管材料一覧表」のとおり。 弁は、マレフバルブを形弁とする。 （ディスクはラフコ型、パッキンはH350+H2200（灯油使用可能品、0.98MPa） 試験は、空気圧縮試験とし、最大常用圧力の1.5倍の圧力とする。試験結果のチャートを提出する。 3. 空調設備	
項IV. 改修工事概要	工事内容は下記のとおり、実施範囲、箇所及び数量等は、図及び器具表に表記する。 ○印が今回工事を示す。			
1. 衛生器具設備	・既設の和風大便器を撤去して洋風便器を新設する。 ・既設小便便器の洗浄方式をハイタンク方式から個別感知フラッシュ弁方式に変更する。 ・既存の洗面器を撤去、新設する。 ・既設洗面器、手洗器を撤外し、排水トラップ及び止水栓等の付属金具を新品に取替え、器具本体は清掃後、再取付けする。 ・既設掃除流しの排水トラップ外面を、錆落し、再塗装する。 ・老朽化した水栓類を撤去・新設する。 ・ ・ ・			
	2. 給水設備			
	・給水管を撤去、新設する。（工事範囲の全て） ・給水管の一部を撤去又は残置し、必要な配管を新設する。 ・既存管再利用とし、保温、塗装、防食工事を行う。（範囲は図示による） ・ ・ ・			
	3. 排水設備			
	・器具の改修に伴う必要な配管を新設する。（範囲は図示による） ・使用内の床排水金具（ワンシトラップ）は、内部掃除及び防錆塗装の上、樹脂製ワシに取替える。 ・再加工を施す既設コンクリート製流し及び人研流しの排水金具を取替える。 ・排水管の一部を撤去又は残置し、必要な配管を新設する。 ・高圧洗浄を行う。（範囲は図示による） ・ ・ ・			
	4. 給湯設備			
	・既設給湯器、湯沸器を撤去し、給湯器、湯沸器を新設する。 ・既設給湯器、湯沸器を撤外し、再取付けを行う。 ・給湯配管の一部を撤去し、必要な配管を新設する。 ・ ・ ・			
	5. 消火栓設備			
	・工事に支障となる屋内消火栓箱を撤外し、再塗装を施した後に再取付けを行う。 ・屋内消火栓配管の一部を撤去、新設する。 ・既設屋内消火栓ポンプ等を撤去し、新たにポンプユニットを新設する。 ・既設配管、充水槽等の汚れを落し、再塗装を施す。 ・屋内消火栓の外装塗装を施し、操作説明シールを貼付ける。 ・ ・ ・			
	6. 給油設備			
・既設給油口ボックス（埋込型）を撤去し、露出型給油口ボックスを新設する。 ・給油管の一部を撤去又は残置し、必要な配管を新設する。 ・既設戸別タンクを撤去、新設する。 ・既設オイルギアポンプを撤去、新設する。 ・既設配管、タンク等の汚れを落し、再塗装を施す。 ・ ・ ・				
7. ガス設備				
・既設ガス栓をヒューズコックに取替える。 ・既設ガス配管の一部を撤去、新設する。 ・ガス漏れ警報器、マイコンメーター等を更新する。 ・ ・ ・				
8. 空調設備				
・既設エアコン（屋内・外機、架台共）を撤外し、再取付けを行う。 ・既設冷媒配管、ドレン管、制御配線は撤去廃棄し、再取付け時に新設する。冷媒ガスは再利用するものとし、不足分を補充する。 ・工事に支障となるFF式暖房機を撤外し、再取付けを行う。 ・既設エアコン、FF式暖房機を撤去、新設する。 ・ ・ ・				
9. 換気設備				
・既設換気扇を撤去、新設する。 ・居室に24時間対応の換気扇を新設する。（24時間スイッチは電気工事に支給する。） ・開放式ガス湯沸器を設置する場合は、湯沸器連動換気扇を新設する。（連動スイッチは電気工事に支給する。）				
＜用語の説明＞				
（1）「撤去」とは、既存物を壊し取ること。 （2）「取外し」とは、再利用を考慮して、丁寧に外すこと。 （3）「撤去・新設」とは、既存物を撤去し、新たな物を設置すること。 （4）「取外し・再取付け」とは、既存物を取外し、同じ物を取付けること。 （5）「備品移動」とは、工事の施工に支障となる備品を一時的な場所に保管し、工事終了後に元の場所に戻すこと。 （6）「移動」とは、既存物を取外し、取付場所を変更して再取付すること。				
設コンサルタント株式会社 愛知県知事登録（いー3）第2633号 士（大臣）登録第185246号 館林 正三				
令和4年度 工事番号 4魚建第1号				
工事名 四日町排水ポンプ場建築・建築機械設備工事				
処理区分名 排水区分 四日町第1排水区				
施工箇所 魚沼市 四日町 地内				
図面名称 建築機械設備工事仕様書（2）				
縮 尺 図面番号 AM-2				
課長 係長 室長 課長 設計 測量				
魚沼市産業経済部建設課				



機 器 類 一 覧 表																
記 号	名 称	系 統	台数	型 式	機 器 仕 様										備 考	
					冷房能力 (kW)	暖房能力 (kW)	室 内 機		室 外 機		電 源 (相-V)	付属品				
							送風機 (kW)	補助ヒータ (kW)	送風機 (kW)	圧縮機 (kW)		A	B	C		D
ACP-1	空冷式パッケージ形空調機	電気室	2	床 置 形 (冷暖房兼用形)	12.5 (5.7～14.0)	14.0 (6.3～18.0)	0.152	——	0.211	2.41	3φ200V	○	○			室外機基礎(本工事) (参考：1200×600×150H)
共通事項		1. 冷暖房能力はJ I S条件による。 2. 付属品      A：室内機木台      B：防振ゴムパッド(室外機) 3. インバーター制御方式とする。 4. 電気容量は参考値とする。 5. 停電後復電後自動運転機能付とする。 6. 新冷媒機種とする(R32)														

記 号	機 器 名 称	機 器 仕 様	台数	付 属 品	備 考
SFS-1	給気消音器 (圧力扇付き)  (ポンプ設備用)	全開口形 材 質：SUS製 処理風量：17,400 CMH 騒音特性：50 dB仕様 消音器寸法(参考) 2200 × 1300 × 3400H 付 属 品：鋼板製有圧換気扇(大風量形) 900 φ × 17,400 CMH × 2.2 kW (三相-200V)	2	フード、防鳥網、防火ダンパー 据付用鋼材一式	電源は将来のプラント電気工事にて実施
SFS-2	給気消音器 (圧力扇付き)  (自家発電設備用)	全開口形 材 質：SUS製 処理風量：20,700 CMH 騒音特性：50 dB仕様 消音器寸法(参考) 2500 × 1300 × 3400H 付 属 品：鋼板製有圧換気扇(大風量形) 1050 φ × 20,700 CMH × 2.2 kW (三相-200V)	1	フード、防鳥網、防火ダンパー 据付用鋼材一式	電源は将来のプラント電気工事にて実施
SFE-1	排気消音器 (圧力扇付き)  (ポンプ・自家発兼用)	全開口形 材 質：SUS製 処理風量：14,900 CMH 騒音特性：50 dB仕様 消音器寸法(参考) 2200 × 2100 × 2500H 付 属 品：鋼板製有圧換気扇(大風量形) 900 φ × 14,900 CMH × 2.2 kW (三相-200V)	2	フード、防鳥網、防火ダンパー 据付用鋼材一式	基礎(建築工事) 電源は将来のプラント電気工事にて実施
共通事項		1. 電気容量は参考値とする。			

冷媒配管・配線 リスト		
液 管 × ガス管	室内外渡り電気配線	備 考
9.5φ × 15.9φ	EM-CE 2.0mm <sup>2</sup> -4C 内、1Cアース(電源・信号兼用)	断熱材被覆鋼管の断熱厚は、液管10mm以上、ガス管20mm以上とする。 屋外露出部はGW保温筒(20t)整形の上、ステンレス鋼板仕上げとする。 室内外機渡り配線は、冷媒管に共巻きとする。



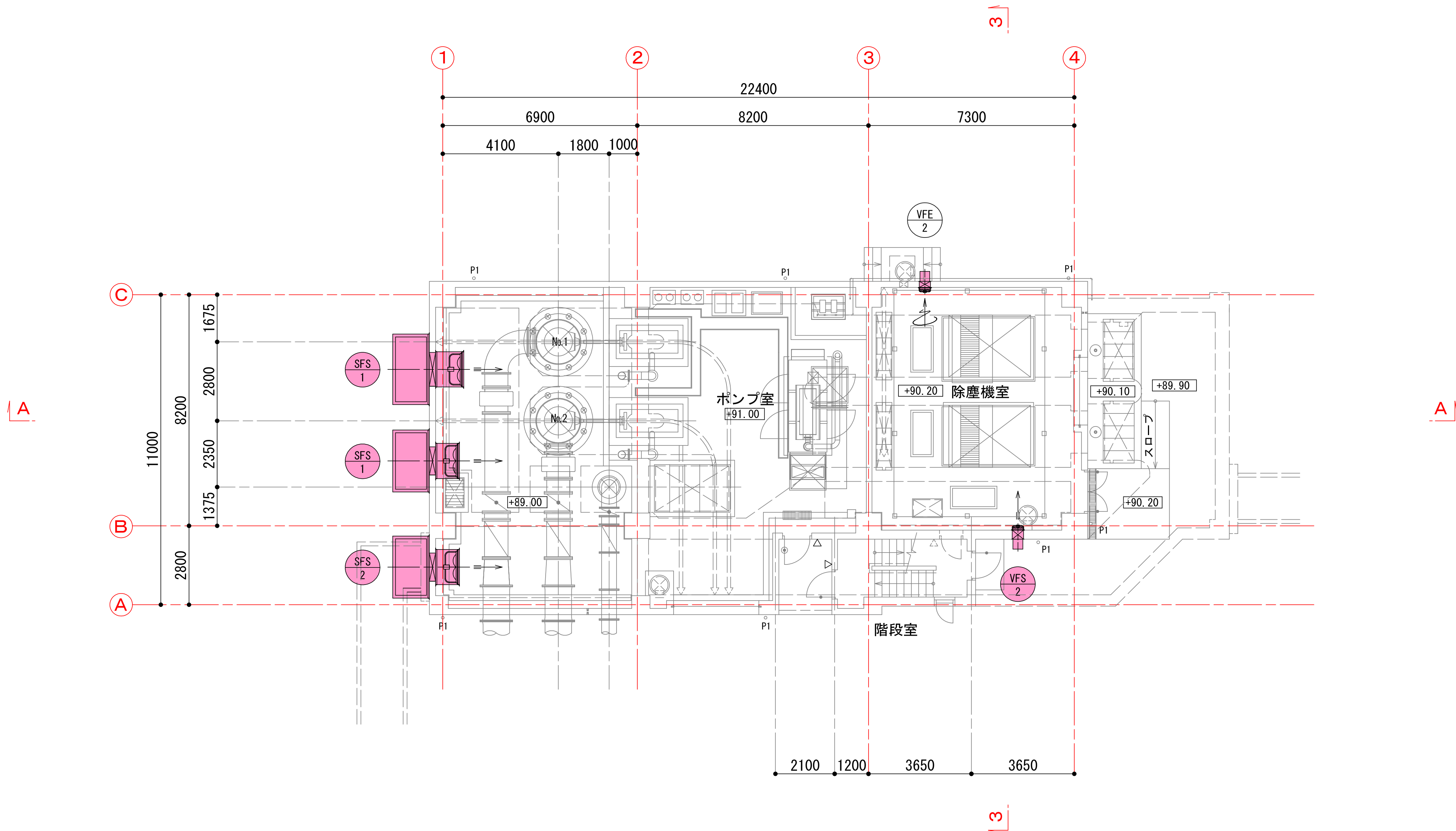
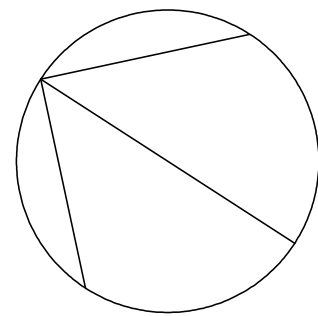
記 号	名 称	系 統	台数	型 式	N0 (φ)	風 量 (m <sup>3</sup> /h)	静 圧 (Pa)	電 気 容 量 (kW)	電 源 (相・V)	付 属 品	備 考
VFS-1	換 気 扇	電気室	1	有圧換気扇 (低騒音形)	(300)	920	40	0.050	3φ200V	電気式シャッター、取付枠 給気用ステンレス製ウレザークカバー(防鳥網付)共	
VFS-2	換 気 扇	除塵機室	1	有圧換気扇 (低騒音形)	(350)	1,940	40	0.100	3φ200V	電気式シャッター、取付枠 給気用ステンレス製ウレザークカバー(防鳥網付)共	
VFE-1	換 気 扇	電気室	1	有圧換気扇 (低騒音形)	(300)	920	40	0.050	3φ200V	電気式シャッター、取付枠 排気用ステンレス製ウレザークカバー(防鳥網付)共	
VFE-2	換 気 扇	除塵機室	1	有圧換気扇 (低騒音形)	(350)	1,940	40	0.100	3φ200V	電気式シャッター、取付枠 排気用ステンレス製ウレザークカバー(防鳥網付)共	
共通事項		1. 電気容量は参考値とする。									

空調換気設備系統図

中日本建設コンサルタント株式会社  
一級建築士事務所 愛知県知事登録(い-3)第2633号  
一級建築士(大臣)登録第185246号  
館林 正三



施工年度	令和4年度	工事 番号	4魚建第1号
工事名	四日町排水ポンプ場建築・建築機械設備工事		
処理区分名		排水区分	四日町第1排水区
施工箇所	魚沼市 四日町 地内		
図面名称	空調換気設備 機器表・系統図		
縮尺		図面番号	AM-3
課長	係長	審査	図計
課長	係長	審査	図計
魚沼市産業経済部建設課			

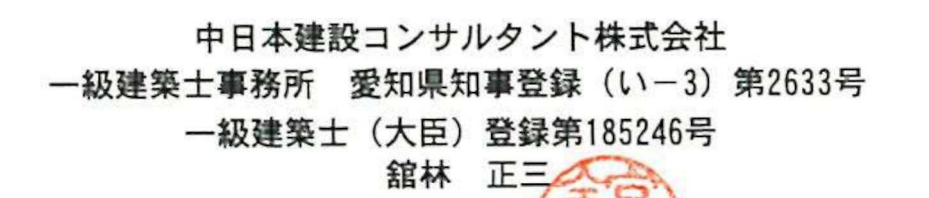
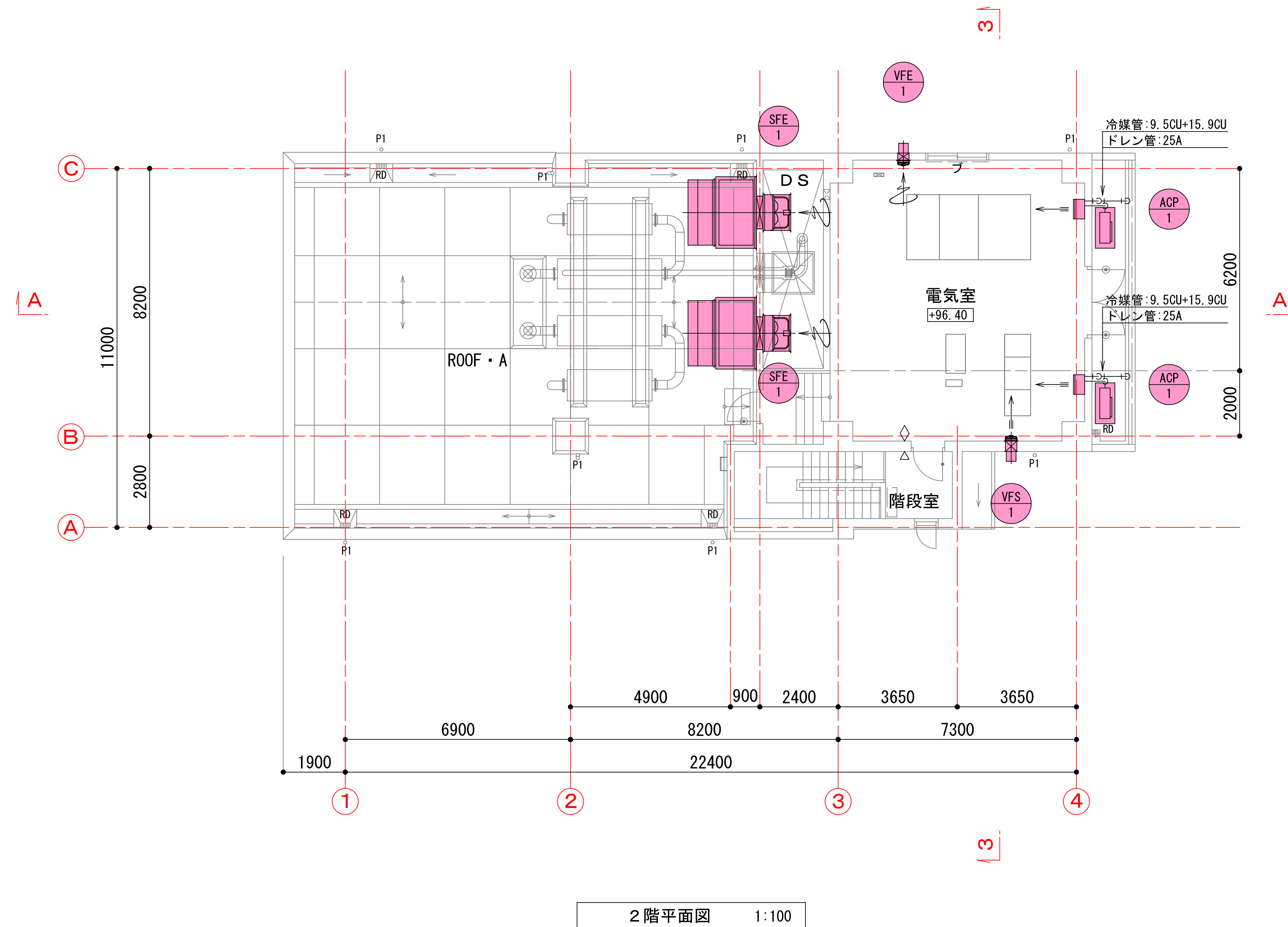


1 階平面図 1:100

中日本建設コンサルタント株式会社  
一級建築士事務所 愛知県知事登録 (いー3) 第2633号  
一級建築士 (大臣) 登録第185246号  
館林 正三



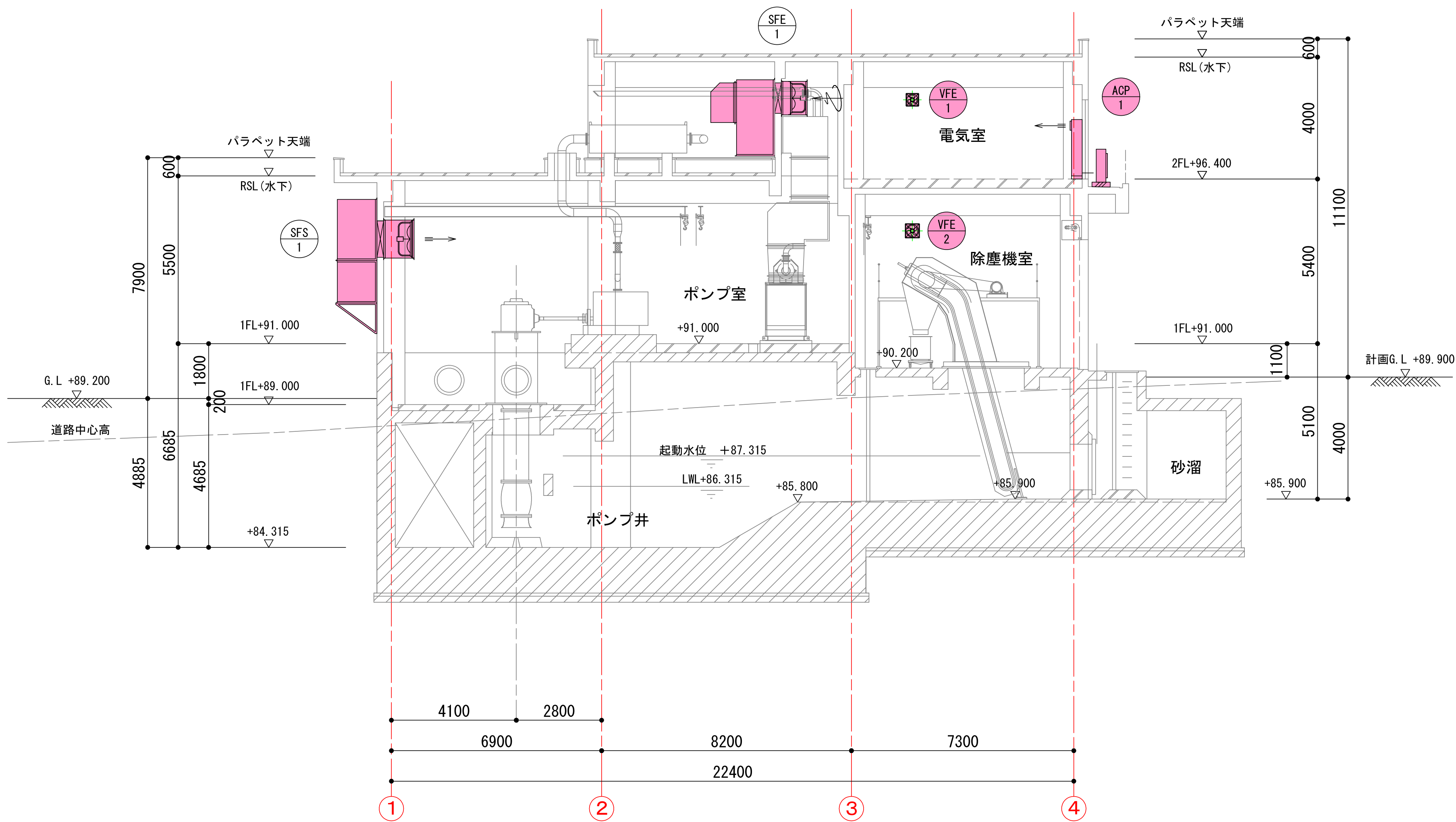
施工年度	令和4年度	工事番号	4魚建第1号
工事名	四日町排水ポンプ場建築・建築機械設備工事		
処理区分名		排水区分	四日町第1排水区
施工箇所	魚沼市 四日町 地内		
図面名称	空調換気設備 1階平面図		
縮尺	1:100	図面番号	AM-4
図系	図表	審査	図計
図系	図表	審査	図計
魚沼市産業経済部建設課			



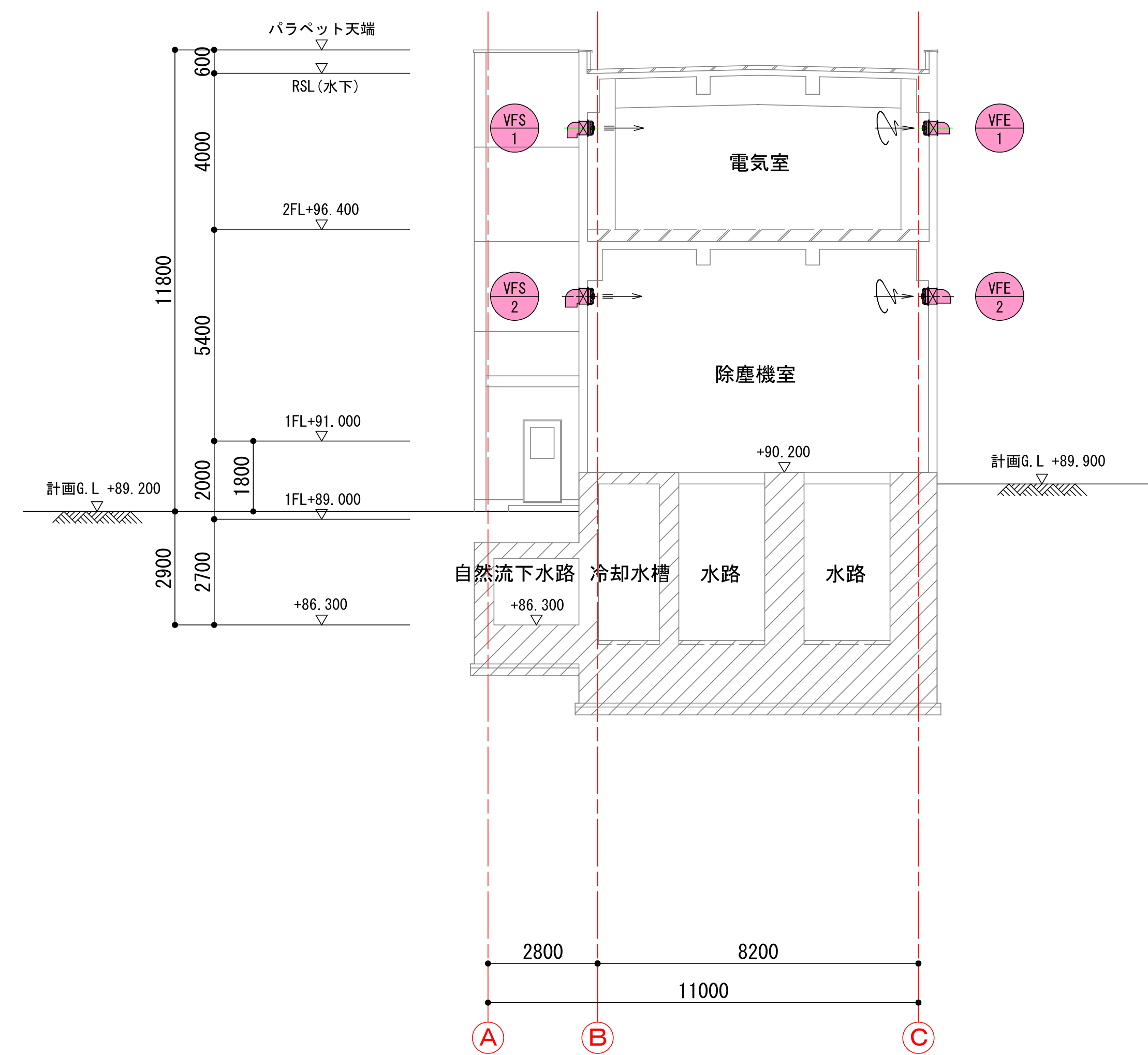
施工年度		令和4年度		工事番号		4 庫建第1号	
工事名		四日町排水ポンプ場建築・建築機械設備工事					
処理区分名				排水区分		四日町第1排水区	
施工箇所		魚沼市 四日町 地内					
図面名称		空調換気設備 2階平面図					
縮尺		1:100			図面番号		AM-5
調 兵		係 長		査 査	調 査	設 計	測 量

魚沼市産業経済部建設課





A-A断面図 1:100



3-3断面図 1:100

中日本建設コンサルタント株式会社  
一級建築士事務所 愛知県知事登録 (い-3) 第2633号  
一級建築士 (大臣) 登録第185246号  
館林 正三



施工年度	令和4年度	工事番号	4魚建第1号
工事名	四日町排水ポンプ場建築・建築機械設備工事		
処理区分名		排水区分	四日町第1排水区
施工箇所	魚沼市 四日町 地内		
図面名称	空調換気設備 断面図		
縮尺	1:100	図面番号	AM-6
図系	図表	審査	図計
図表	図表	図表	図表
魚沼市産業経済部建設課			